アジアの風

第１５号
２００８年9月３０日

題字：宋　貴美子

編集・発行　アジア児童文学日本センター（[redacted]）

第９回アジア児童文学大会　盛況裡に終了

台風「鳳凰」が歓迎？　広がる研究・実践の交流の環

第９回アジア児童文学大会は７月２７日から３１日まで台湾の台東市で開催され、韓国、中国、台湾、シンガポール、マレーシア、日本から計１２０名が参加しました。日本からの参加者は２４名です。大会の企画・運営は国立台東大学児童文学研究所が担当し、国立史前博物館を会場に論文発表を中心とする討議や交流が行われました。(大会プログラムや発表された論文については、２頁に掲載)

第１日の７月２７日には台風『鳳凰』が台湾南部を襲ったため、台北・台東間の航空便が運行されるかどうか心配でしたが、幸い日本の参加者は全員無事台東空港に到着。以後大会は最終日まで予定通り行われました。国立史前博物館には同時通訳装置やビデオ・プロジェクターを常備した講堂があり、会場としては申し分のない施設でしたが、会場内にたくさんのハエが舞い込み、参加者を驚かせました。この地域は有機農業が普及し、農薬を使用しないために非常にハエが多いのだそうです。この大会のテーマ「『土、土、土』：生態、グローバル化と主体性」を考えるにはふさわしい施設だったのかもしれません。また第２日の夜には先住民族の若者たちによる歌と踊り、第４日のエクスカーションでは布農族の施設での歌など、台湾の民族文化にふれる機会もあり、有意義な５日間でした。参加者からは「大会で大勢のみなさまにお会いでき、お話を伺えましたこと、夢のようです。」「初めての台湾行でしたが、台湾の魅力にはまりかけています。」など、さまざまな感想がセンターに寄せられています。

第９回アジア児童文学大会プログラム

第１日　７月２７日（日）

受付　13：00〜　　各国会長会議　18：00〜
レセプション　19：00〜

第２日　７月２８日（月）

開会式　9：00〜
基調講演（李在徹氏）9:30〜　　写真撮影、　展示見学
論文発表（１）　13：00〜
グローバル化の趨勢が世界・アジア・韓国における児童文学に対する影響　李春姫（韓国）
近代児童図書における「昔話集」編纂の意味——近代日本人の朝鮮認識と昔話集　大竹聖美（日本）
児童文学に美しい未来を　愛薇（マレーシア）
民族感情と児童趣味——近代中国少数民族児童文学小論　張錦胎（中国）
論文発表（２）　15：00〜
相生と調和のための韓国の「創世歌（チャンセガ）」　鄭善恵（韓国）
土地倫理思考からの児童文学の未来——酪農生活の中での子どもの本づくり　大倉尚美（日本）
児童映画における動物観　潘明珠（香港）
台湾児童文学主体意識形成の変奏曲——『魯氷花』を例に　幸佳慧（台湾）
論文発表（３）　16：40〜
儒教的生態学の視座から児童文学を見る　黄正鉉（韓国）
グローバリゼーション下における「アジア児童文学」——ローレンス・イエップ、シンシア・カドハタ、リンダ・スー・パークの作品から　成實朋子（日本）
黄春明の児童劇シナリオにおける生態への意識の初探索　黄美満（台湾）
楊紅桜：「モノ」と「ヒト」の間での遊走　李利芳（中国）

第３日　７月２９日（火）

基調講演（L.R.フラスティーノ、C.ミルズ）　9：30〜
論文発表（４）10：00〜
アジア児童文学の発展における在地化および主体性　慎憲締（韓国）
日本人が歌い継ごうと選んだ里山の詩情　和田典子（日本）
時代の産物：『児童楽園』の創作及び編集の発展する方向　霍玉英（香港）
「多文化的児童文学」か「国際児童文学」か　劉文雲（台湾）
論文発表（５）13：00〜
グローバリゼーションが児童文学に与えた影響　南民祐（韓国）
自然の再生をめざす実践者の著作に学ぶ——宮脇昭の著作を中心に　清水雅子（日本）
２１世紀のシンガポール児童マンガ作品にみられるエコロジー現象——『大拇指』マンガシリーズ論評　孫愛玲（シンガポール）
頼馬の先住民族神話の絵本『射日』から台湾生態児童文学の未来を考える　劉于棋（台湾）
論文発表（６）15：00〜
児童文学における自然描写と生態論理　朴邦熙（韓国）
グローバル化する社会でのアジア児童文学の可能性を考える　野崎斐子（日本）
中国大陸児童 SF 小説の発展における３つの時期　呉 岩（中国）
新聞を媒介に児童文学を伝達する——『現代中小学生報』の編集から思ったこと　魏春峰（中国）
閉会式　16：30〜

第４日　７月３０日（水）

エクスカーション：台東文化古跡の旅（布農部落、三仙台ほか）
フェアウエル・パーティ

第５日　７月３１日（木）

帰国

台湾大会に参加して

新たなネットワークの手ごたえ

むさしのスカーレット・アジアお話の会

野崎斐子

第五回アジア児童文学大会台東大会では、アジアの児童書を軸に展開している小さな地域活動の立場からの意見を発表する機会を得ました。研究者、作家の立場からの発表が多い中で、こうした地域活動の広がりという観点からの発表はめずらしかったようで、さまざまな反響ありました。この貴重な出会いを無駄にしないため、早速活動を開始しました。

中国遼寧省の文学少年雑誌社の肇夕さんからは、作品の交換をしたいとの申し出がありました。魅力的な計画とはいえ、著作権、出版権などの問題があり、すぐ実現することは難しそうです。しかし、何かできることを始めようということになりました。取りあえず、日本で現在、翻訳出版販売されている中国の作品をリストにまとめて送付したところです。

発表後会場から、四川大地震被災地の子どもたちに本を送ることはできないかという質問を受けました。大量に送るとなると、本の購入とその翻訳、送料などが頭をかすめ、即答できませんでした。しかし、日本に帰ってから、「やってみようよ！」という話になりました。私たちが出版した本ならなんとかなるかもしれない、四川の子どもたちに私たちの心を届けたい、そんな思いが一歩を踏み出させています。

発表を終えて席にもどったとき、アメリカから参加されたEastern Connecticut州立大のFraustinoさんがぽつりと言われました。「この活動が必要なのは、私たちかもしれない。」この言葉に、またひとつ何かが広がったような気がしています。

一つの出会いから広がる新しい世界

山花郁子

「参加者に多少の余裕あり」という児文協の通信を目にした途端心が動いた。たまたま私の旧作が台湾で翻訳されていたこともきっかけになったが、フリーの立場で研究者たちの論文発表が聞けるというのが最大の魅力。「土、土、土ー生態、グローバル化と主体性」というメインテーマは、いささか難解であるがお固い論文は後でゆっくり資料に頼ればよいと割り切って初参加。というわけで私は同時通訳の恩恵にも浴して、発表者の表情ことばをゆったり追いかけることができたのである。最も親近感を抱いたのは、中国の新聞記者による読書推進活動の実践発表であった。読みきかせ・朗読・名作の再創造の試み等、読書によるアニマシオンの分野であるが、私の「歌と語りのブックトーク」との共通項が興味深く受け取れた。何より有意義だったのが会員同志の和やかな交流の場が持てたことである。

しかしゆったりした気分の旅は帰国するや終止符。留守中届いていた小学生の感想文のなかに、大竹聖美さん訳の韓国の絵本『とらとほしがき』が上がっていたことで早速大竹さんと並んでとった写真を返事に添えた。

嬉しかったのは台湾の詩人・林煥彰さんからサイン入の詩集を贈呈していただいたことである。『孤独的時刻』という書名の詩集の中から「椅子和我」という詩を急に原文で暗誦したくなった私は、早速九州の水上さんにFaxして、読み仮名を振っていただいたりした。慌ただしい日常も親しい人とのやりとりでほっとうれしい時間を手にすることができる。図書館の書庫でも、しきりに台湾・中国・韓国の文字が踊るようになった。季節は秋！「アジアの風」は、目下私の　仕事に心地よい追い風を送ってくれている。

多くの友が声をかけてくれた

大倉尚美

台湾での大会テーマは「土、土、土」を掲げていた。酪農家の私にとって、土は生命であり生活であり創作の源でもある。農業は自然や生き物を相手に生きる厳しい仕事、だが人の生命や美しい自然環境を保つ大切な仕事でもある。人の心を癒し創造力を高めてもくれる。私の農場やそこに生きる子どもたちと共に、絵本や童話作りの学びや創作活動をパワーポイントで説明した。

最後に自然と共に生きるアイヌ民族と龍の伝説物語を描いた絵本「龍の神とうぐい沼」（文と和紙絵　大倉尚美）の読み聞かせをした。発表後多くの友が声をかけてくれた。

「日本にも台湾と同じ先住民族が住んでいるのですね、感動しました。」

「美しい和紙絵ですね。でも和紙は韓国から日本へ伝わったのですね。」

「これは、子どもと一緒に描いた絵本です。あなたの絵本と交換して下さい。」

台湾は農業と先住民族保護と観光に力を入れている。地元の食べ物もおいしかった。高等教育を受けた先住民の人たちが歌い、踊り、手工芸品を持って迎えてくれた。その誇りあるおおらかな笑みには心安らいだ。

楽しい大会であり多くの友を知った。そして今日も香港から手紙が届いた。「またお会いしましょうね」と。

新刊紹介

大自然禮賛 亞洲童詩選

香港中外文化推廣協会　2007年刊

香港で活躍する児童文学者の潘明珠、潘金英姉妹の編集したアジア少年少女詩集で、今回のアジア児童文学大会に向けて出版されたものである。最後の「お礼のことば（感謝的話）」に書かれた「謝謝大自然！大自然孕育生命、大自然是詩的根源、是愛的体現。為大自然謳歌是童詩永恒的題材、抒写対自然万物与生命的真・善・美・愛・正是所有児童文学作家的共同願望」という言葉に編者たちのねらいをうかがうことができる。

中国からは陳伯吹、張秋生など６人（６篇）、香港からは黄慶雲、何達など７人（10 篇）、台湾からは林煥彰、林武憲など10人（10篇）、韓国からは李相教１人（３篇）となっており、中国語圏の詩人が多くなっている。日本からは谷川俊太郎「さようなら」、畑中圭一「ぼくのくすの木」、みずかみかずよ「ポプラの海で」、島田陽子「逃げる草」の４篇が採られている。

残念ながら日本の４人の作品だけ日本語・中国語併記で、ほかはすべて中国語（漢字）表記だけになっている。予算的に難しかったのかも知れないが　アジア童詩選というからには、中・韓・日の３語で出してほしかった。

なお各作品に組み合わされた写真はすべて陳豈令氏の撮影になるもので、非常に美しく、しかも詩の内容をよく理解したものになっているのがすばらしい。

こうした詩集を刊行された潘姉妹に敬意を表するとともに、これをきっかけとして今後アジアの詩人たちが広く交流して、より充実したアンソロジイが世に現れることを期待したい。

雑誌・紀要紹介

『まゆ』第１０７号　　２００８年６月刊

◇ タイの説話「布施太子のお話」
　平田晶子・翻訳／伊藤徳子・再話／野崎斐子・絵
◇ 「黄砂にのってきた悟空」（４）小笠原洽嘉
[連絡先]
　室蘭市清水町２－７－８　高丸千代子氏
　☎　０１４３－２４－２５４４

『学大国文』第５１号　　２００８年３月

（大阪教育大学国語教育講座・日本アジア言語文化講座発行）
◇「近代中国における『童話』――「童話」叢書と『無猫国』をめぐって」　成實朋子

こんな催しが……

◇ 世界の絵本展

――インド絵本と絵まきもの紙しばい――

インドの絵本とポト（絵巻物）を各１００点展示。ほかに金基淑・京都文教大教授の講演やインド留学生によるヒンディー語の読み聞かせ、民族楽器サントールの演奏など。

２００８年７月２３～２７日
京都市国際交流会館

◇ 日本児童文学学会第４７回研究大会

２００８年１０月１１～１２日
愛知淑徳大学　星が丘キャンパス
《アジア関係の発表論文》
◆「満州児童雑誌『新童話』について」
　柴村 紀代（藤女子大学）
◆「近代中国における『童話』～『無猫国』と Whittington and His Cat」
　成實 朋子（大阪教育大学）
◆「中国における Alices Adventures in Wonderland の受容――1922年上海商務印書館発行『阿麗思漫遊奇境記（不思議の国のアリス）』を中心に」
　浅野 法子（中国児童文学研究者）

あとがき　　畑 中 圭 一

台湾大会が無事終了した。日本からの参加者２４名も５日間の日程を元気にすごしてくださった。というのは、２４名中、７０歳代が、私を含めて８人、６０歳代が６人という、かなりの高齢集団（？）で、暑い時期でもあり、少々健康面で心配していたのであるが、皆さん本当にお元気で、私の心配は杞憂に過ぎなかったのである。なかでも最高齢の中尾明氏は、大会終了後さらに台湾各地を旅行されており、そのヴァイタリティにはただただ敬服するばかり。しかも、皆さんそれぞれに良い手応えを感じて帰国されたようで、お世話をした者としてとても嬉しいことである。

２年後の第１０回大会は、中国の金華市・杭州市で開催されることが決まっている。また、その次の第１１回大会（２０１２年）は日本で開催することが求められており、どこで、どのように開催するのか、本格的に企画・準備を始めるべき時期になっている。センター会員の皆さんからも、このことについてのご意見やご提案をいただきたいと思う。ご意見等は畑中または、きどのりこ副会長宛にご連絡ください。